

キャラクター紹介
加奈子先生
高峰山学園の英語教師。
竿役の押しに流されやすい。



キャラクター紹介

ケンジ君

加奈子先生に声をかけるナンパ者。

どうやらお金持ちらしい。



某県白瀬平市…

首都圏からほど近いベッドタウンにして高山財閥が支配する学園都市…



ここは白瀬平市の駅前にある美術館です。
今日はフランス絵画の展覧会の最終日、
印象派に駆逐されたサロン画家達の傑作が並ぶ展示室で、
一人の女性が物憂げに絵画を眺めています。
彼女は日野加奈子先生。
白瀬平市にある高峰山学園の英語教師です。

何度目になるかわからない大きなため息をついて、
加奈子先生は絵画を眺めます。
今日は彼女の婚約者、早川君とのデートのはずでした。
美術館で絵画を鑑賞し、
その後は加奈子先生の好きなピアニストのコンサート、
そして夜には…
そんな予定を早川君は立ててくれていました。



でも、二日前に海外に出張している
早川君からメールが送られてきました。
くごめん。加奈子さん。飛行機のトラブルで
日本に帰るのが遅くなります。
予約のキャンセルはできないようなので、
一人で楽しんできてください。>
そんなわけで加奈子先生は
一人で美術館にやってきたのです。

コンサートまではまだまだ時間があります。
一人で巡る美術館は味気なく、
あっという間にめぐり終えてしまいました。
ヴィーナスの誕生を眺めながら、
どうしようかと考えている加奈子先生に
声をかける者がいます。





『ねえねえおねーさん。
悲しそうな顔してどうしたの？』
美術館に似合わない黒いスーツに
軽薄そうな顔つき。
一目でわかるふわふわした態度、
わかりやすいナンパです。

普段ならこのような男は歯牙にも
かけない加奈子先生ですが、
今日は違いました。
「ええっと、その、なんていうか、ちょっと、
デートのはずだったんだけど、いろいろあって…」
うまく説明できないでいると、
男はにっこり笑って言いました。



『俺、ケンジ。
なんかさ、チケットもりったから来てみたんだけど、
絵画とかむつかしくてよくわかんねーの。
おねーさん、俺に教えてくれない？』

加奈子先生は少し笑って答えました。
「…そうね。
うん。いいわ。
それと私は加奈子。おねーさんはやめてね。」
『オッケー。カナコさん。』
そうして加奈子先生とケンジ君は出会ったのです。



「…そうね。
いいかもしれない♡」
『えっ？やった！』
加奈子先生はにっこり笑って
コンサートのチケットを出しました。
「ちょうどチケットが余ってたの。
静かなところに行きましょう？」
『ええ～』

ケンジ君との美術館巡りは思いのほか楽しく進みました。
ケンジ君は聞き上手なようです。
加奈子先生の説明を面白そうに聞いてくれます。
落ち込んだ気分も晴れやかになりました。
加奈子先生はなんだかドキドキします。
展覧会を一巡りしたところで、
カフェで一休みしているとケンジ君は言いました。
『カナコさん。
教えるの上手だねえ。
ねえねえカナコさん。
この後ヒマ？
おれとどこか静かなところ行かない？』